

Yashica

ヤシカフレックス写真術

ヤシカフレックス愛用者のみにお頒ち
する使用書の豪華版・ヤシカによつて
のみ為し得たサービス精神徹底!

八洲光學精機株式會社

非売品

新橋サービス部企劃室編

ヤシカフレックス写真術

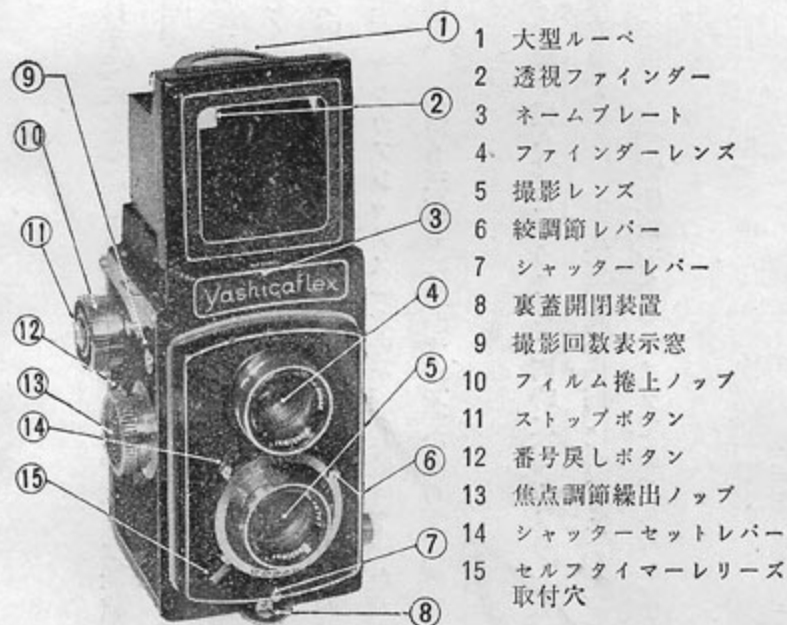
カメラは肩に……写真術はポケットに……

若尾文子さん(カバー写真) 撮影 松島 進

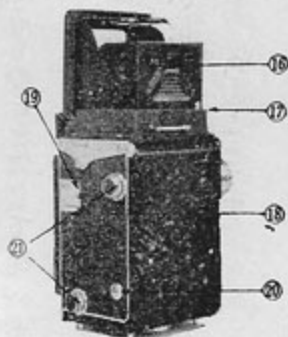


A 型 各 部 の 名 称

よく覚えておいて下さい。あとの説明をお読みになるときに役立ちます。



- 16 透視ファインダー
視穴
- 17 透視ファインダー
戻しボタン
- 18 裏蓋
- 19 フラッシュガン
取付用座金
- 20 シンクロタミナル
(ドイツ式)
- 21 スプール着脱ノッブ

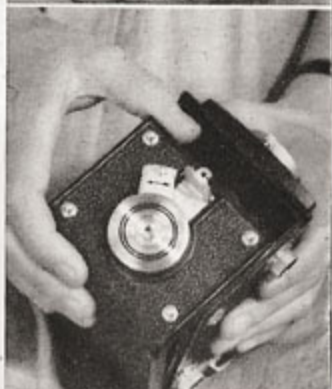


フィルムの入れ方

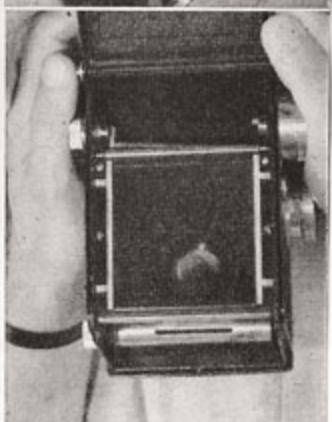
フィルムをカメラに入れることを装填（そうてん）ともいいます。入れるときは、何かのはずみに光線を引き入れる心配がありますから、日光の直射は絶対にさけて下さい



まず表蓋の開閉金具を矢印の方向に動かします。



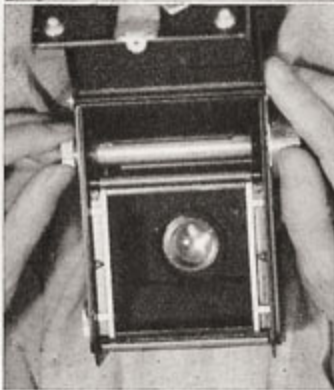
止金がゆるみまますから裏面をこのようにして開きます。



表蓋を開きますと空スプールが二つ添付されています。これが新しいフィルムの捲取り用となるものです。



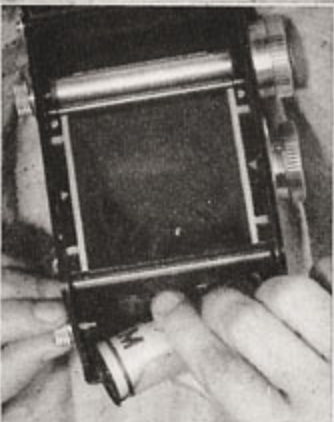
上部捲上ノツブのところに空スプールを入れます。これは図のようにスプールのツブを引くと容易にはいります



ノツブの廻転がスムーズで、スプールが真直ぐであればよいのです。



フィルムの封を切り巻きがはぐれないように注意して指先で持ち……



下部の方に先の空フィルムと同じ要領で入れます。



空スプールの場合と同じで、少しでも曲つているのはどこかに無理があるため、それを直しましょう



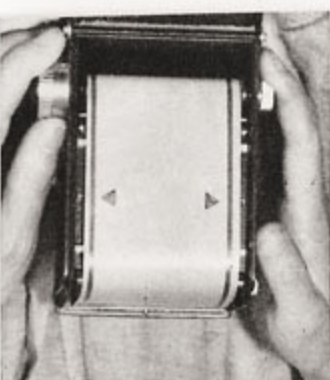
フィルムの先（リーダーペーパー）を静かに引き出し、スプールの中心部に差込みます



この程度の差込みを終えたら、ノツブを廻し、スプールとフィルムが完全に平均しているかを確かめます



なおも確かめつつ、静かに巻くもしフィルムが左右どつちかに少しでも片よるようでしたら、改めて捲直しましょう



フィルムの▲印が出てきたら、カメラの赤い▲印に合わせてとめ



明けるときと逆の方向に金具を押してしっかりと止めます。これでフィルムが装填されたのです。

各部機構の扱い方

順序に従った正しい扱い方が大切です。乱暴に扱ったり、手ちがいから生じた無理を押しとおすと、思わぬ故障がでえますからよく注意して下さい。



捲取ノツブの中心部を指先で押込みながら他の指先で戻しノツブを引き下げますと、番号窓の◎印が⊙に代ります



続いて捲取ノブを捲いて1の数字が出て、ノブがストップし、これで撮影ができるわけです。



一枚撮影が終わったら再び捲取ノブの中心を押し、次の数字が出ます。



ファインダー・ブレードは指先で軽く持ち上げます。折れたなむとも軽くブレード前方を押しおきます。



撮影のときレンズキャップを外し、もう、傷めることを防ぐためです。



捲取ノブを前後に動かし、ピントグラスでハッキリと目的物を止めることがピントを合わせることになるのです。



しかし、より正確にピントを合わせるためにルーベを使用します。ルーベは透視ファインダー上部を指先で押せば簡単にとびだします。



ルーベを使うときは十分目に近づけないとピントグラスの全面を見ることはできません。



透視ファインダーを使用するときはブレードの前後を押しおきます。元に戻すときはブレード後方のボタンを押します。



露出計または露出表で絞りと露出をきめます。絞りの調節レバーを目的の絞りの数字に合せます。



次にシャッターのダイヤルを廻して希望の速度の数字を◇印に合わせます。



シャッター・セットレバーを下方に引き下げます。注意、セットレバーを掛けたからシャッターレバーを変えないで下さい。



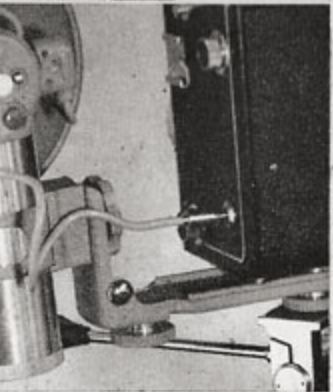
目的物をピントグラス、または透視ファインダーでとらえ、人さし指の先で静かにシャッターを切ります。



宙吊り以上の露出をするときは三脚に安定し、レリーズを使いましょう。目を使わずに、レリーズで押している間、レンズが開き、絞りが閉じます。



セルフタイマーはレリーズの取付穴につけ、セルフタイマーは一眼レフ用を買って下さい。

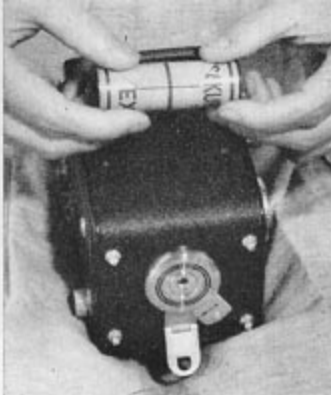


フラッシュ・ユニットのコードの差込み点、ドイツ式タミナルですから、ドイツ式用を買って下さい。

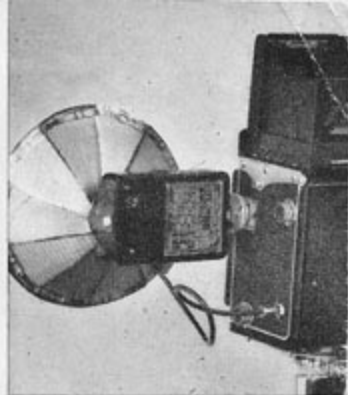


ガンを付けた正面図、しかしセルフタイマーを使用する以外は三脚の必要ありません。

リーダーペーパーの先を撮影前と同じように折り込んでおくと、現像するときに手掛りがあつて便利です。



このゆう型を用いるときは、フラッシュが取付金具に差込みます。



シールをキチンと貼り付けましょう。



フラッシュ撮影のときも、カメラを安定するように構えて下さい。



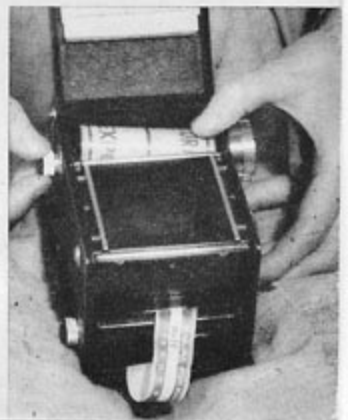
一本撮影が終わるたびにフィルムの順序なり、短かいメモを書き付ける習慣を付けて下さい。



フィルムの外し方

フィルム装填のときと同じように、太陽の直射光下を避けて下さい。せっかく写したフィルムがほぐれて光線を引き入れないように。

スプール脱着ノックを引きますと自然にフィルムの片方が上りますから引抜きます。



カメラを安定させることが先決

何れにしてもブレを防ぐためには、カメラを安定させることが先決問題で、ただ両手で持てばよいというのでは甚だ心もとないと思います。たとえば野球のピッチャーが狂いのない球を投げるときに、ただ手先や腕だけではなく、身体全体とのバランスを保っていますが、それと同じように、カメラの構え方、シャッターの切り方もまずそれ位の心掛けが大切です。ですからどれ程両手でカメラをしっかり抱え、指先で軽くシャッターを切ってもこれを支え、また調子を合わせる身体全体の構えもまた当然あるべき筈なのです。

何故いろんな角度

の構え方が必要か

写真を撮る際の角度(ウとメを)が、被写体の写実的効果を現わすためのものだからです。この構え方は、カメラの構え方、シャッターの切り方もまずそれ位の心掛けが大切です。ですからどれ程両手でカメラをしっかり抱え、指先で軽くシャッターを切ってもこれを支え、また調子を合わせる身体全体の構えもまた当然あるべき筈なのです。



基本としての

胸の高さ

速写ケースを利用するに、胸の高さでカメラを構えるのが最も安定した構え方です。胸の高さでカメラを構えるときは、カメラのレンズが目の高さより少し下になるように構えます。この構え方は、カメラの構え方、シャッターの切り方もまずそれ位の心掛けが大切です。ですからどれ程両手でカメラをしっかり抱え、指先で軽くシャッターを切ってもこれを支え、また調子を合わせる身体全体の構えもまた当然あるべき筈なのです。



器物を利用しましょう
カメラを安定させるには三脚が一番よいのはいうまでもないことですが、その場で持

ち合せていないということも多々あるでしょう。そんなときには、あたりを見廻して、三脚に代るべき器物や場所を探してみて下さい。もち論高さや低さ、角度の自由は三脚ほどに得られませんが、それでも10秒以上の露出を与えた場合には、無理をして手持ちでカメラ・ブレを起すよりずっと有効です。たとえば①のように平面な所があれば完璧ですし、角度も、何かを下にかませば相当の自由が利くはずであり、②のような条件もまたどこでも見出せます。③の低い位置は二眼レフの独壇上ですが、この場合地面を利用して下さい。しかし④のように速写ケースを付けたままでは、撮影レンズが邪魔されて写らない部分が出来ますからご用心。これをケラれると呼ばれていいます。外したケースをお忘れなように。



露出の基礎知識



舞台稽古 (左尾上梅幸 右市川海老蔵)

A型絞り全開 フジネオパンS 赤砂

誰でも撮影にさきだつて心配になるのは露出の決め方です。つまり、絞をどの数字にして、シャッターをどの数字の目盛にすればよいかということでしょう。ですから最初これら基礎となるものを探り上げて、いちおうの理解を得ていただきます。もつともS型や、単独の電気露出計(露出メーター)を購められた方は、この問題の大半を、即座に解決されることでしようが、それでも次のページから示しますような種々な条件を覚えておかれるのは、何れの場合でも大切であり、また有利であるの申しすまでもありません。美しい写真——とは、そのフィルムに正しい露出を与えた原板から……ということを一歩を第一歩として、件と考へてもよいのです。

セコニック 露出メーター



セコニック
リーダー
2600円



セコニック ガイドL-7
1400円

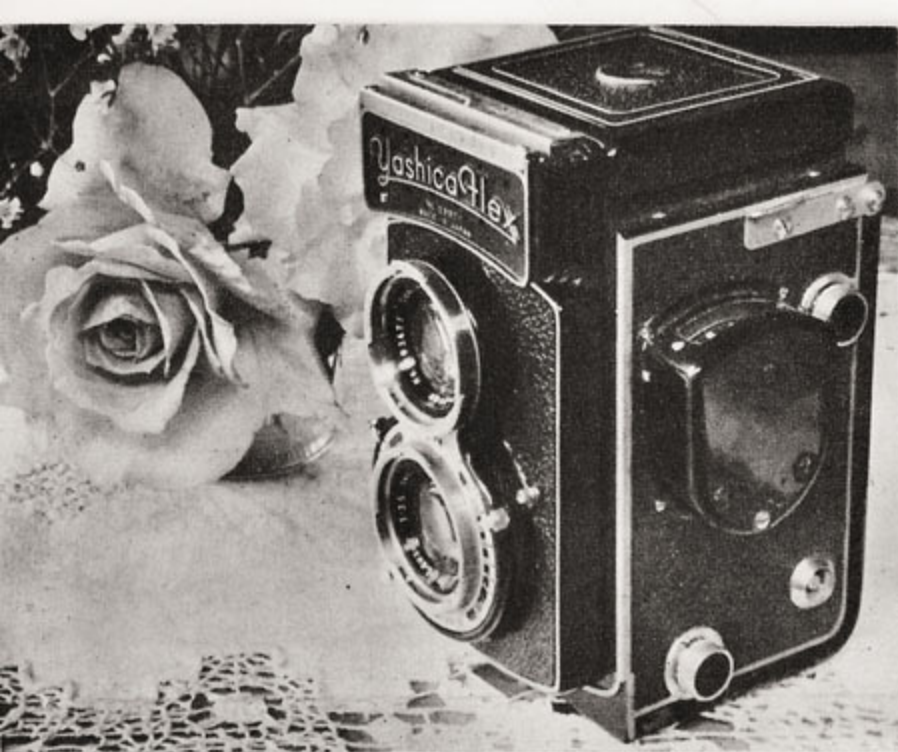
わが国屈指の露出計メーカーであるセコニックでは、新しく小型で簡便な大衆価格のガイドL-7を発表しました。本当に一枚の無駄もなく、良い写真を撮るために……とくにカラー撮影になくてはならぬ必需品です。下記へお申込みになればカタログを無料で送呈してくれます。

東京都中央区日本橋本石町3-4
早苗商会



初歩の人たちには、始めから人工光線ばかりでの採光はむづかしいとも考えられますので、本作例のように、昼間明るい室内で外からの自然光を採り、リフレクターなどを補助光として使いますと、ごく自然な、柔かい感じのポートレートができます。ちなみに、前ページと本作例はプロクサー1号を用いたものです。

A型F3.5 全開 ネオパンS 赤砂



S型・電気露出計の使い方

電気露出計とは

光が当たると極く弱い電気をおこすフォトセル(普通セレンウムの薄い層の面)というものを利用して、その起電力の微弱な変化を敏感な電流計の目盛で測つて、フォトセルに入射した光の強弱を測定し露出を測定する計器で、ヤシカフレックスS型ではこれをカメラ自体に内蔵して、カメラの性能にマッチした目盛をほどこし、読み易くしてある。

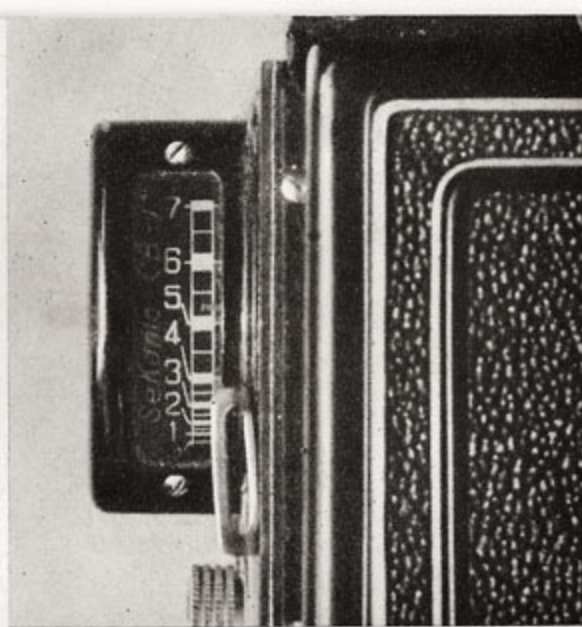
使用法……

① 先ず使用フィルムの感光度を忘れないように、カメラの捲上ノップのフィルムインディケータを廻わして、外側の赤い点の所に合わせておきます。

ネオパンS、コニパンS オリバンSなどはASA 50。ネオパンSS、コニパンUSS、スーパーパンXXなどはASA 100にあわせます。



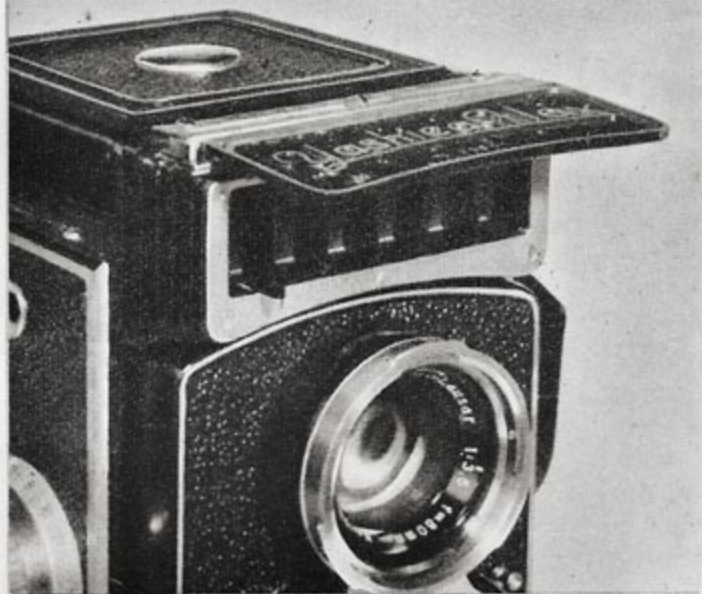
② カメラを正確に被写体に向けると、被写体の明るさに応じて、左側面のメーターの赤い指針が動いて、一定の場所に止ります。写真では5の所を指しています。周囲が暗いために針が殆んど動かない時には、カメラ前面上部の開閉板を開けて被写体に向けて測ります。開閉板は、板の右端にあるボタンを左へ押すと開きます。



※を移動させます。(感光度数字はA, S, A, Speedと書いてある目盛) そうすると下に、絞り(F, Stop)とシャッター(Time)の目盛の組合わせができます。これが求める露出になるわけです。

③ このメーターで読みとつた数値を、カメラ上面の目盛尺の一番上の目盛(Lightと書いてある)に移し、その目盛の位置に、使用中のフィルムの感光度の数字が合うところまで、中央のスライド尺を滑らせ※





暗い場所では……

室内や暗い場所で、メーターの指針がフレない時には、上の写真のように前面の照度切換板を開けて、入射窓から入る光の量を多くして、露出計の感度を上げてやります。開閉板を上げると自然に目盛は切り換えられ、下の写真のように一番上の目盛の位置は左へ移りますので、前と同じ方法で読みとつて、そのまま正しい露出が得られます。



C 型各部の名称

背後の機構は 32 頁の A 型と殆ど同じです



1. 透視ファインダー
2. ネームプレート
3. フライヤーレンズ
4. 絞調節レバー
5. 撮影レンズ盛
6. 絞目盛
7. セルフタイマー
8. セットレバー
9. 裏蓋止め金上ノブ
10. フィルム捲上ノブ
11. ストップボタン
12. 撮影回数表示窓
13. 焦点調節線出ノブ
14. シャッターセットレバー
15. シャッター速度目盛
16. シャッターボタン

16. 大型ルーベ
17. は 11 と同じ
18. ASA 感度表示盤
19. 番号戻しボタン
20. 焦点深度目盛

C 型に就いて

C 型をお購め下さいまして誠に有難う存じました。B・S・A の各型に続きましたこの C 型は、言わばわが八洲光学精機株式会社の最新鋭機であり、それだけに今日までの経験と、技術の粹を結集し得た、絶対の自信ある製品と言えましょう。

さて「カメラ一台に一人の指導員を」との念願を盛って編まれた本書であります。C 型発売の期日と、本書出版の期日とに喰い違いが生じたため、残念ながら今回は、A 型が中心になってしまったことを、深くお詫び申し上げます。そのために、止むを得ずこの紙面を追加添付する運びとなったものですが、しかし本書の内容として述べられている事柄は、即ち C 型の使い方、写し方、また写真の知識でもあるわけです。ですから機構の違いとか、それらに依って生じてきました扱い方の要点を、この紙面でご説明申し上げることに止めた次第です。ご諒承の程をお願い致します。

さればヤシカの最新鋭 C 型を、颯爽と肩にされたあなたのお姿を祝福申し上げます、今後のご活躍をお祈りしておきましょう。(一九五五年初秋 編者)

C型がA型と違ってきた主な点は 次のとおりです。

レンズ ファインダー(上部)のレンズがトリローザーで、撮影レンズ(下部)がヤシコールであることですが、双方ともF^{3.5}焦点距離80ミリであるのはA型のヤシマーと同じです。しかし新しい撮影レンズのヤシコールによって、一段と描写性能を増した点は、容易に分っていただけたと思います。

シャッター コバル五枚羽根ですが、C型では最高速度1/300が秒となり、1/10秒以下のスローシャッターとして1/5秒、1/2秒、1秒が加えられ、しかも待望のセルフ・タイマーが付きました。またシャッター・レバーに代って軽快なボデー・シャッターとなったため、いわゆるシャッターぶれの心配



せば閉じます。そして図のように、双方の矢印の起点が中心部になったとき、完全に裏蓋が閉じられていくわけです。

ASA感光度表示盤 フィルムの捲上ノックには新たに装填したフィルムのASA感度を明示するように表示盤が付けられました。赤字はカラー、黒字は普通のフィルムです。使用法は中のリングの中間にツメが出ていますが、まれば簡単に左右何れにも廻せますから、赤い点にその使用フィルムの感度係数を合わせることにしましょう。もっともこれは撮影に直接の作用を為すものではありませんが、使用フィルムの記憶に過ちを起さないために活用していただきます。

セルフ・タイマーの使い方

C型には待望のセルフ・タイマーが内蔵されましたので、記念撮影にもあなた自身が加わることも出来ますし、色々と趣向をこらした自分のポートレートを写すことも出来ます。さてセルフ・タイマーの扱いですが、必ずまず写真で示したように、まず①で矢印の方向にシャッターをセットし、次に②の方向にセルフ・タイマーをチャージするのです。それから③でボデー・シャッターを押します。すると、ジーと音を立て始めから急いで下図のように予め定めた(ピントを合わせた)位置に向います。この間、約8秒から10秒の余裕があるわけです。時間がくればもちろん、普通のとおりシャッターの切れた音(音が聞えない場合はシャッターの動きを見る)がしますから、それで撮影が済んだわけです。

なおセルフ・タイマーを使用する場合には、カメ

も殆どこれで解消したわけです。

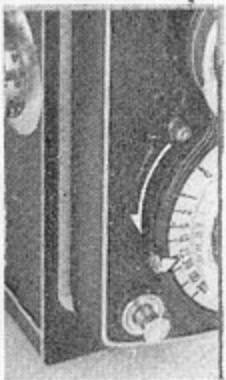
バヨネット レンズ・フードやフィルターの脱着(付いたり外したり)はバヨネット式に変わりましたので

フードはバヨネット30
フィルターはバヨネットF3.5用
と指定されてお買いねがいます。このバヨネット式は、こうした撮影補助用具をガッチリとカメラに密着させるため、平衡を失ったり、外れたりしないで完全です。

裏蓋の開閉 廻転するカム式になりました。この点フィルムの入れ方に示しましたA型の説明写真と違ってきますが、赤の矢印で示した方向に廻せば止め金がゆるんで開き、右へ黒の矢印のCに廻

シャッターの切り方

まず図の方にシャッター・レバーを指先で引き下げますとセットされますから、次にボデー・シャッターのボタンを、人さし指の先で軽く押す呼吸はA型の場合と同じと心得て下さい。軽いからブレは大丈夫と甘く見ることやはり禁物です。



ラを安定させるためには三脚を是非必要とします。

